

令和 8 年 7 月 3 1 日	病 害 虫 発 生 予 報 8 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	------------------------	-----------

農薬散布の際は周囲への飛散防止対策を徹底しましょう

～令和 8 年度茨城県農薬危害防止運動期間（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：いもち病（穂いもち）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
水稻：斑点米カメムシ類（イネカメムシ、アカスジカスミカメ等）・・・・・・・・	1
○水稻収穫後の管理について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
サツマイモ：ナカジロシタバ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ナシ：ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫）・・・・・・・・	3
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・	3
果樹共通：果樹カメムシ類 （チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）・・・・	4
共通害虫：オオタバコガ・・・・・・・・・・・・・・・・	4
共通害虫：シロイチモジヨトウ・・・・・・・・・・・・・・・・	5
○サツマイモ基腐病の防除対策（生育期～収穫期）・・・・・・・・	5
【その他の病虫害】	
水稻、大豆、サツマイモ、ナシ、ブドウ、秋冬ネギ、夏秋ナス・・・・・・・・	6
II. 今月の気象予報	7
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」（https://pesticide.maff.go.jp/）で確認することができます。	
詳しくは、茨城県病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/	
※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や 農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせ ください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、葉いもちの発病度¹⁾（本年値 1.7、平年値 2.4）、発生地点率（本年値 35%、平年値 42%）ともに平年並である。
- ② 葉いもちの感染好適日出現日数（BLASTAM²⁾による）は、平年並である。
 - 1) 発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に感染しやすいのは、出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は、発生に注意する。
- ② 穂いもちを対象とした液剤による防除適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。
- ③ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を選択する。

2. 斑点米カメムシ類（イネカメムシ、アカスジカスミカメ等）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水田内におけるイネカメムシの 10 回振りすくい取り虫数（本年値 0.3 頭、平年値 0.5 頭）は平年並～やや多く、発生地点率（本年値 12%、平年値 8%）は平年並～やや高い。
- ② 7月下旬現在、水田内におけるアカスジカスミカメの 10 回振りすくい取り虫数（本年値 0.3 頭、平年値 0.3 頭）は平年並～やや多く、発生地点率（本年値 16%、平年値 5%）は平年よりやや高い～高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 水田内の雑草（ヒエ・イヌホタルイ等）は斑点米カメムシ類を呼び込むので、除草に努めるとともに、水田内に斑点米カメムシ類が生息していないかよく確認する。
- ② 出穂期～乳熟期にイネカメムシ等によって穂を集中的に吸汁加害されると、著しい不稔被害が発生することがある。これらの斑点米カメムシ類の発生が多い地域では、不稔被害の軽減を目的とした防除を出穂期～穂揃期に行う。

(水稲 続き)

- ③ 乳熟期以降に斑点米カメムシ類の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期（出穂期10～15日後）に行う。防除を実施した水田であっても、その後に幼虫のふ化や成虫の再飛来があるため、発生を認めた場合は追加防除を実施する。
- ④ 防除の際には、農薬の収穫前日数や使用回数、周辺作物(特に早生品種を作付している水田)への農薬の飛散に注意する。
- ⑤ 晩生品種等、周辺水田と出穂期が異なるほ場では、集中的に被害を受けることがあるので特に注意する。

(令和8年7月15日発表 病害虫速報 No.5 参照)

水稲収穫後の管理について

まもなく水稲の収穫時期です。イネ縞葉枯病及びイネカメムシ対策のため、収穫後はできるだけ速やかに耕起し、ひこばえ（再生稲）を放置しないようにしましょう。また、ほ場周辺のイネ科雑草の除草に努めましょう。

① イネ縞葉枯病対策

イネ縞葉枯病ウイルスを保毒したヒメトビウンカが翌年の感染源となります。ひこばえとイネ科雑草は、ヒメトビウンカの生息・越冬場所になる他、本病に感染したひこばえは、ヒメトビウンカの保毒虫率上昇の原因となります。

② イネカメムシ対策

ひこばえや一部のイネ科雑草が出穂すると、イネカメムシが好んで吸汁します。収穫後も栄養を蓄えることで、越冬後の生存率が高まるおそれがあります。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、被害つる先率（本年値 28.0%、平年値 23.6%）、発生地点率（本年値 100%、平年値 76%）ともに平年並～やや高い。
- ② 7月下旬現在、100葉あたりの寄生虫数（本年値 0.8頭、平年値 0.9頭）は平年並～やや多く、発生地点率（本年値 40%、平年値 28%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下するので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、被害果を認めず平年並である。
- ② 4月から7月中旬までのナシヒメシンクイのフェロモントラップへの総誘殺数は、小美玉市、筑西市（下館地域）で平年よりやや多く、筑西市（関城地域）で平年並、笠間市、土浦市で平年並～やや少なく、かすみがうら市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種（「幸水」等）で被害が認められた場合は、中生～晩生品種（「豊水」や「新高」等）で被害が多くなる傾向があるので注意する。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。ほ場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際は、収穫前日数等に十分注意する。
- ⑤ 薬剤散布の時期については、以下の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、**第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後**である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 表中の土浦市、かすみがうら市、筑西市（下館地域）については、今後、病虫害防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

※薬剤散布の際には、収穫前日数等に十分注意する。

表 調査ほ場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

地点	第四世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市	8月9日	～	8月14日
小美玉市	8月4日	～	8月8日
石岡市	8月9日	～	8月13日
かすみがうら市	8月9日	～	8月13日
土浦市	8月13日	～	8月18日
筑西市（下館地域）	8月5日	～	8月9日
筑西市（関城地域）	8月9日	～	8月13日

1) 第二世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(7月31日現在)。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率(本年値 0.03%、平年値 0.11%)は平年並である。
- ② 7月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の総誘殺数(本年値 1,840 頭、平年値 642 頭)は 11 年中 2 位で平年よりやや多い～多い。
- ③ 7月第4半旬までの笠間市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の総誘殺数(本年値 3,168 頭、平年値 4,030 頭)は 11 年中 5 位で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の発生時期や発生量は地域やほ場によって異なるため、定期的にはほ場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ③ 今後、果実が肥大するカキやリンゴのほ場では、カメムシ類が飛来するおそれがあるので注意する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近 1 か月間(6月21日～7月20日)のフェロモントラップ誘殺数は、龍ヶ崎市で平年より多く、筑西市で平年よりやや多い～多く、坂東市で平年よりやや多く、土浦市で平年並～やや少ない。
- ② 7月下旬現在、大豆、ナスほ場で被害を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下し、中齢幼虫になると茎や蕾、果実や結球内に食入するため、薬液がかかりにくくなる。このため、食入前の若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

(令和 8 年 7 月 15 日発表 病害虫速報 No. 4 参照)

(共通害虫 続き)

2. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間(6月26日～7月25日)のフェロモントラップ誘殺数は、笠間市およびつくば市で平年よりやや多い。
- ② 7月下旬現在、夏ネギほ場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下する。また幼虫が作物内に食入するため、薬剤がかかりにくくなる。このため、食入前の若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ③ 薬剤散布は、薬剤が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

サツマイモ基腐病の防除対策（生育期～収穫期）

サツマイモ基腐病は、発生初期の対応がまん延防止の鍵となります。
定期的にほ場を見回り、異常株の早期発見に努めましょう！

1. ほ場の見回りを定期的に行い、発病株の早期発見に努める（葉の黄化、萎凋、株元の黒変などの疑わしい症状がないか確認する）。
2. 農業用資材（収穫コンテナ等）や農機具を別ほ場で使用する場合は、十分に洗浄する。
3. 本病の発生（疑義症状を含む）を確認した場合には、**最寄りの農業改良普及センターへ連絡**し、関係機関の指導の下、発病株および発病の恐れのある株を抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
4. 収穫後のサツマイモは、収穫したほ場を特定できるよう、ほ場ごとに区分した上で管理する。

参考資料

総合防除によりサツマイモ基腐病への効果的な対策を！（茨城県農業技術課）



サツマイモ基腐病に関する遵守事項の見直しについて（茨城県農業技術課）



【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	縞葉枯病	発生量：多い	7月下旬現在、平年より多い発生である。
	紋枯病	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在、平年よりやや多い発生である。向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。
	ニカメイガ	発生量：平年並	7月下旬現在、平年並の発生である。
	イネツトムシ	発生量：やや少ない	7月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始める時期）に防除を実施する。
大 豆	サヤムシガ類	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。
イ モ サ ツ マ	イモキバガ	発生量：平年並	7月下旬現在、平年並の発生である。
ナ シ	黒星病	発生量：やや少ない	7月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや少ない	7月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
ブ ド ウ	褐斑病	発生量：多い	7月下旬現在、平年より多い発生である。
	べと病	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。
	晩腐病	発生量：平年並	7月下旬現在、平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在、平年並の発生である。
秋 冬 ネ ギ	ネギアザミウマ	発生量：－	7月下旬現在、夏ネギは場において平年よりやや多い～多い発生であるため、秋冬ネギでも発生に注意する。
夏 秋 ナ ス	アブラムシ類	発生量：やや多い	7月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在、平年並の発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8 月 1 日から 8 月 31 日)

気象庁 (7 月 30 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	関東甲信全域	10	40	50
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 8 月 1 日 (土曜日) から 8 月 7 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 2 週目の予報 > 8 月 8 日 (土曜日) から 8 月 14 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 30%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 8 月 15 日 (土曜日) から 8 月 28 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

予報に掲載の病害虫を防除する場合は、「茨城県総合防除計画」の別表 2—1 を参考に化学農薬のみに依存しない「総合防除」を心がけてください。

茨城県総合防除計画



農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。